

令和元年度学校自己評価システムシート (秀明高等学校)

目指す学校像	常に真理を追究し、友情を培い、広く社会に貢献する人間形成を目的とする
--------	------------------------------------

重点目標	①父母の教育信託に応える教育を行う ②生徒に「知る喜びと学ぶ楽しさ」を実感させ、次の授業を期待する気持ちを持たせる ③生活指導の徹底
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する。) は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標					年度評価 (3月31日 現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
①	学園創立者の教育理念を具現化し、魅力あふれる学校づくりを進めるために、以下の項目について、一層徹底する必要がある。 ・基礎・基本を徹底して確かな知識・技能を養い、思考力・判断力・表現力を育成する。 ・学校と家庭が連絡を緊密にとって「共育」「協育」を進める。 ・生徒が志望する大学に進学できるよう適切かつ確かな進路指導を行う。	学習指導の充実と志望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 授業、夜間学習、週末課題、大学入試過去問題演習、個別指導など、「きめ細かく面倒を見る学習指導」を行う。 家庭からの「共有通信」をもとに学校と保護者が協力して生徒を育てる。 生徒が志望する大学に合格できるよう、学習面のみならず精神面のサポートも行う。 面接練習や小論文指導は、全教員で取り組み、万全の指導体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の他に学期ごとに実力テストを実施する。 授業内でチェックテストを実施し、重要事項の定着を図る。 学校からの通信である「秀明通信」の毎週配信する。 家庭からの「共有通信」を随時受け付ける。 面接練習や小論文指導を計画的に実施する。 「秀明通信」を一斉メール配信を毎週行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査前に目標と学習計画を立てさせ、学力向上に励むよう指導した。 前学期の復習を含めた実力テストを実施し、学習内容の定着と応用力の養成を図った。 「共有通信」を通して、学校と保護者が連絡を取り合い、対応することができた。 生徒を少人数グループに分けて面接練習や小論文指導を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト等の高大接続改革に対応し、調べ学習や主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)の機会を増やし、学びの記録を残す。 複数の教員から受験アドバイスが受けられる体制を確立する。 学校と保護者が協力し合う「共有通信」を受け付け、即時対応することを継続する。 大学入試情報を収集・分析し、適切かつ確かな進路指導ができるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会、授業公開、三者面談を定期的に行っている。 ホームページや一斉メール配信などのシステムを活用し、家庭への連絡や危機管理体制を確立するとともに、家庭からは「共有通信」を利用して要望事項を聞き、学校と保護者が協力して生徒を育てる体制ができています。 3年生の受験指導では、データに基づいた効果的な指導が行われ、国立大学医学部への現役合格などの成果を挙げている。 面接練習や小論文指導を、生徒を少人数のグループに分け、全教員が分担して繰り返し行っている。
②	生徒に「知る喜びと学ぶ楽しさ」を実感させ、次の授業を期待する気持ちを持たせるために、以下の項目について、さらに指導を徹底する必要がある。 ・生徒が主体的・能動的な学びに取り組むよう指導する。 ・授業技術の改善に努める。 ・生徒の疑問に対応するとともに、次の課題を的確に指示できるようにする。	授業の改善と指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)を導入した授業展開の技術を向上させる。 電子黒板などICT教材を活用し、生徒の理解を促す授業を展開する。 教員は大学入試問題の分析などに励み、教科指導力を向上させる。 授業アンケートを実施し、結果を踏まえて改善する。 研修授業は必ずテーマを明確にする。毎週1回以上、教員相互による授業見学を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試センター試験を分析するとともに、大学入学共通テスト(新テスト)に対応できるよう情報を収集する。 国公立大学の入試問題の出題傾向を調査・把握して授業に活用する。 授業アンケートを年間5回実施する。 研修授業を年間2回以上実施。毎週、教員相互で授業を見学し、意見を交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試問題を研究し、指導教科力を向上させた。 主体的・対話的で深い学びの導入やICTの活用に努めた。 授業アンケートを年間5回実施。 全教員が年間2回以上の研修授業を実施。他教員の授業を年間30コマ以上参観して授業改善に努めた。 学習過程を可視化した学習ロードマップ「スキルコード」によって、学びを深める授業モデルを研究し、発表、実践した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト施行調査を分析し、学習指導に活用する。主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)を実践、生徒の理解力・判断力・表現力を育成する。 次年度も年間5回の授業アンケートや年間2回以上の研修授業を実施し、授業改善を図る。 授業を積極的に参観し、授業技術の改善と知識修得に努める。 オンライン学習教材の効果的な運用を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりに声をかけて指導されている。生徒一人ひとりのつまづきを見逃さずフォローされている。 大学入試センター試験など入試問題と関連付けて説明されていて、受験への意識が高まり、実力も養うことができる。 生徒に考えさせるとともに、自分の考えを発表させるなど思考力・判断力・表現力の養成に力を入れ、実践力を伸ばす工夫がされている。
	英語検定、漢字検定、数学検定、世界遺産検定など資格試験に積極的に挑戦させているが、上位級の取得を目指して計画的に学習させるよう指導を継続する必要がある。	資格試験	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定は、放課後や夜間学習を活用して継続的に指導し、生徒全員を上位級に挑戦させる。 漢字検定や数学検定、世界遺産検定は、資格取得の利点を理解させ、生徒各々の実力に合わせた級から受験させるとともに、さらに上位級への挑戦意識を高めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定…高校卒業までに2級が取得できるよう積極的に受験させる。準1級合格を目指して個別に指導する。 漢字検定…2級取得を目標として計画的に学習するよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定…2級未取得者は全員受験した。 漢検…2級未取得者は全員受験した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定、漢字検定とも学校挙げて受験対策に取り組み、上位級に挑戦させ、確実に合格させる。 生徒に資格試験取得の利点を理解させ、上位級への挑戦意欲が高まるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格試験に積極的に挑戦させている。特に英語検定は、生徒全員が毎回上位の級を目標に過去問題演習に取り組み、良好な結果を出している。 検定試験受験の申し込みから結果の発表まで、教員のサポート体制が行き届いている。
③	寮生活及び学校生活全般において、以下の項目について指導を徹底する。 ・基本的な生活習慣を確立させる。 ・5つの約束(飲酒・喫煙・盗み・暴力・不純異性交遊をしない)の厳守。 ・「心の学習」を充実させ、自分と他人の命を大切にすることを育み、善と悪の判断力を養う。	生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪・身だしなみの指導は、学年全体で統一して行う。 いじめや嫌がらせは、アンケートや面談の実施により、常に生徒の状況を把握し、問題の解消に努める。 先祖や親への感謝の心を育てる。 善悪の判断(区別)をしっかりとつけさせる。 新聞記事を素材として意見発表させるとともに、自分の考えを『自学自習の記録』に記させ、健全な思考力・判断力・表現力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪検査は月1回、身だしなみの指導は随時実施する。 個別面談を定期的に行う。また、必要に応じて随時行う。 毎日主要な新聞記事を生徒に提示し、意見や感想を述べさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪検査は学年集会で実施。身だしなみ指導は毎朝の登校指導から行い、随時実施した。 担任との面談は週に1回、生活アンケートは月に1回実施し、生徒情報については教頭、校長へ報告し、学校で情報を共有した。 毎日、主要な新聞記事を生徒に紹介し、各自の意見や感想を発表させた。 早朝に避難訓練を実施するとともに、安全指導を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に「秀明紳士・淑女」として自覚を促し、自主的に身だしなみを正すという意識を持たせるよう指導を継続する。 人権意識を高め、して良いことと悪いことの判断や、他人をいたわる心を養う指導を継続して行う。 週1回以上の個別面談、月1回のアンケートを継続して行う。 寮生活であることを考慮して、生徒の健康を第一に考える生活様式を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いかなるいじめも許さない」を実践し、厳正かつ迅速な対応をしている。 挨拶の励行や頭髪・服装指導など、全教員が統一の基準で指導にあたり、来校者から生徒たちが進んで挨拶をしてくれて素晴らしいという評価を得ている。 面談と生活アンケートによって、生活上の問題を早期に見出す体制を作っている。 危機管理マニュアルに基づいて各種訓練を実施している。 薬物乱用防止等の講演会や心の学習により、善と悪の判断力をつけることや、犯罪に巻き込まれないよう具体的に指導をしている。